

記入例

業 績 書

No. 1

「〇△学修士」「修士(〇△学)」の2
パターンの表記があります。取得し
た学位を正確に記載してください。
(博士も同じです)

業績書作成日

2017年11月7日現在

氏 名 今 出 川 太 郎	学 位	修士 (法学)	博士 (法学)	Ph. D.
	取得年月	1994年 3月	2012年 3月	2016年 6月
	授与機関名	同志社大学	同志社大学	コロンビア大学

項目別	西暦 年 月	論 文 ・ 著 述 ・ そ の 他
修士論文	1994 3	論文名 例：「論文名」●●大学修士論文 ※英語表記の場合は“論文名”
博士論文	2016 6	論文名 例：「論文名」●●大学博士論文 ※英語表記の場合は“論文名”
著書 (単行本) 著書 (単著)	2017 5	書名、発行所名、巻号数(シリーズもの(全集, 講座, 叢書, 双書等)の1冊である場合)、著者名、総ページ数等 例：『書名』(発行所名)、著者名、全●●頁 例：“書名”, 発行所名, 著者名, ●●pages ※英語表記の場合 著者が1名の場合のみが該当します。担当部分が単独執筆であっても当該著書等に記載された著者が複数いる場合には、共著に分類してください。
著書 (共著)		書名、発行所名、巻号数(シリーズもの(全集, 講座, 叢書, 双書等)の1冊である場合)、著者名、(総ページ数)、本人担当部分等 例：『書名』(発行所名) 共著者または監修者名等 *担当執筆箇所「第●●章 タイトル●●」(pp. ●●~●●) 例：“書名”, 発行所名, 共著者または監修者名等 *担当執筆箇所 第●●章, タイトル●●, pp. ●●~●● ※英語表記の場合 著者が複数の場合が該当します。担当部分が単独執筆であっても当該著書等に記載された著者が複数いる場合には、共著に分類してください。 共著の場合は、原則として本人を含めて共著者名をすべて記載し、本人担当部分が明確になるように(担当部分の章、節、題名、掲載ページ等)記載すること。 共著者多数の場合は、主な著者と本人を記載し、他○名とすることも可。
学術論文		論文名、著者名、掲載誌名、巻・号、掲載ページ等 学術雑誌、学会機関紙、研究報告等に学術論文として発表したものを記入すること。 単著の場合 例：「論文名」、著者名、『掲載誌名』巻・号、 pp. ●●~●● 例：“論文名”, 著者名, 掲載誌名 (巻・号), pp. ●●~●● ※英語表記の場合 共著の場合 例：「論文名」、著者名 (共著者・本人の氏名を掲載順に)、 『掲載誌名』巻・号、pp. ●●~●● 例：“論文名”, 著者名 (共著者・本人の氏名を掲載順に), , 掲載誌名 (巻・号), pp. ●●~●● ※英語表記の場合 共著の場合は、原則として共著者名をすべて記載してください。 共著者多数の場合は、主な著者と本人を記載し、他○名△番目とすることも可。

同一項目の中
では、発行年の
古い業績から
新しい業績の順
に記載してくだ
さい。

単著の場合

共著の場合

記入例は2枚目に続きます。

*学位欄に学士は記入不要です。

学校法人 同志社

氏 名 今出川 太郎

項目別	西暦 年 月	論 文 ・ 著 述 ・ そ の 他
口頭発表	2017 8	<p>題名、発表者名、発表学会大会名、開催地等</p> <p>例：「題名」、発表者名(○○学会第○○回大会(於○○大学)) 例：“題名”，発表者名，，○○学会，第○○回大会，於○○大学 ※英語表記の場合 共同発表の場合は、原則として共同発表者名をすべて記載してください。 共同発表者多数の場合は、主な発表者と本人を記載し、他○名△番目とすることも可。</p>
その他		<p>(業績上参考になるもの)</p> <p>適宜区分を設けて(翻訳、研究ノート、書評、教材、特許等)記載してください。 辞典の項目執筆等はこの項目になります。</p> <p>「総説」、「学会抄録」、「依頼原稿」等にあつては当該記事のタイトルを 「報告発表」、「座談会」、「討論」等にあつては当該テーマを記入してください。 なお、英語表記の場合“タイトル”等の表記にしてください。</p> <p>書名、発行所名、訳者名、総ページ数、原著者名、原著名等</p> <p>例：『訳書名』(発行所名)、訳者名、総ページ数[原著者名、原著タイトルなど] 共訳の場合は、共著の場合に準じて、共訳者や本人担当部分がわかるように 記載してください。なお、英語表記の場合“訳書名”等の表記にしてください。</p>

翻訳等の場合

業績書記入時点において、刊行されていないもの(近刊、印刷中)は、
本業績書には記載できませんので、ご注意ください。